

「ニュースをつくろう！」を活用した地方の政治を公正に判断する

- 1 校種・教科・科目 高等学校・公民科・「公共」2年
- 2 単元名 「ニュースをつくろう！」を活用し地方の政治を公正に判断しよう
- 3 学習指導要領上の位置付け B（2）政治参加と公正な世論の形成，地方自治単元
- 4 カリキュラムマップとの関連性 多様性の尊重 市民の権利と責任
- 5 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の本旨、地方公共団体は議会と首長の二元代表制であることを理解している。 ・地方公共団体は財産を管理し、事務を処理し、行政を執行する権能を持つことを理解している。 ・地方財政の現状を、統計から適切に読み取ることができる。 ・地方政治の政策、争点について、なぜ見えづらいのか理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体の直接請求権と住民投票の意義と課題を考え、具体的に表現できる。 ・地方分権改革を進めるために、地方公共団体の組織のあり方を分析しつつ、住民参加が推進する案を表現できる。 ・「ニュースをつくろう！」でニュース発信者側と受信者側で、ニュース編集、ニュースの特徴、読み解く視点、あり方を表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体の首長と議会が対立に陥った場合、地方の政治はどうか、事例を挙げながら、多面的・多角的に考えることができる。 ・「ニュースをつくろう！」でニュース発信者側と受信者側は、どのような編集や視聴が求められるのか、多面的・多角的に他者と協働し考え、まとめることができる。

6 単元の特色（教材観）

本単元では、国の政治と比べ、見えにくい自らが居住する地域の政治や地域の諸課題、政策に関心を持たせ、まずは投票参加することを定着させ、その後投票以外の方法で地域の政治に積極的に関わることを目的とする。

このために以下の学習内容を設計した。第1に、生徒に地方自治の本旨、地方公共団体の組織と権限について理解させ、特に二元代表制に着目させる。この二元代表制の下で、首長と議会との関係を具体的な政策や条例をもとに考えさせる。また住民自身が地方の政治を監視するための直接民主制のしくみ、この直接民主制の意義と課題についても考えさせる。第2に、これら地方自治の意義や制度、権限の基本を習得した上で、「住民が創る地方の政治とは何か？」について考えさせる。今後さらに進む高齢社会の進展、国と地方自治体の関係、権限の委譲のあり方などについてふまえながら、住民の知恵と創意工夫を地方の政治に生かすためには、どのような課題があり、この課題克服には国と地方自治体はどのような協力や改革が必要なのかについて考えさせたい。

以上2点の地方自治についての基礎的学習をふまえた上で、ウェブアプリケーション

ョン「ニュースをつくろう！」（詳細は末尾「補足」を参照）を活用する。このアプリケーションを活用する意義とは、地方の政治をより良く理解、かつ生徒に政策選択できるようにするためには、地方政治の政策情報を発信する側と受信する側双方について、学習する必要があると考えられるからである。国の主な政策、争点などの政治的情報ならば、ニュース、新聞などのメディアを通じて理解し、政策選択しやすいと考える。一方、地方の政治、政策、争点などは選挙公報、候補者のビラをもらおう、演説を聞くなどでしかなかなか獲得しづらいと考えている。そこで、生徒がニュースを発信する側と受信する側双方の立場の体験をすれば、どのように見えにくい地方の政治、政策、争点を編集し、読み解けばよいのか、獲得できると考えたのである。

ウェブアプリケーション「ニュースをつくろう！」を活用し、地方の政治の情報、政策、争点を獲得し判断するために、まず発信者側としてニュースづくりを体験させながら、大規模開発に関する報道のあり方を考えさせる。次に受信者側として大規模開発があった場合、どのように報道を読み解くかを考えさせる。この2点を体験させると、生徒は、首長、地方議会選挙に参加する意義、地方政治における政策や争点を公正に判断できるようになり、「何のために地方政治を学ぶのか」（大きな問い）を自覚できる。大規模開発ばかりでなく、地方の政治を公正に判断し参加するために、有権者としてできることや、困難なことがあるとすれば何なのか（より具体的な問い）を自覚し、地方の政治に投票参加、参画する方法を学んで課題克服の視点が得られれば、行動変容する可能性を持つと考える。

7 単元計画

「公共」内容B政治領域 14時間のうち、地方自治単元に3時間配当した。

- (1) 地方自治 (1時間)
- (2) 住民自治と地方分権 (1時間)
- (3) 「ニュースをつくろう！」を活用し、地方の政治を公正に判断しよう (1時間)

【本時】

第1時 地方自治は民主政治の基盤！

- 1 地方自治の本旨とは？
 - (1) 地方自治の本旨を考える
 - (2) 団体自治と住民自治
- 2 地方公共団体の組織と権限とは？
 - (1) 地方自治の政治のしくみ ～二元代表制の下の意義～
 - (2) 地方自治を行政執行から考える
- 3 直接請求権と住民投票の意義と課題は？ ～全国の住民投票の事例をもとに、住民投票の意義と課題を考える～
- 4 まとめ 首長と議会が対立関係に陥った時地域の政治はどうなるだろうか？

第2時 住民の住民による住民のための地方政治とは？

- 1 地方分権一括法とは？
 - (1) 地方分権一括法制定前と後では？
 - (2) 地方分権一括法の意義と課題は
- 2 地方財政の役割と課題は？
 - (1) 地方財政の有り様とは？
 - (2) 地方財政改革と三位一体の改革とは？
- 3 地方分権改革のゆくえは？
 - (1) 地方分権を進める上の課題とは？

- (2) 地方分権改革を進め上で、私たち地域住民ができることとは？

第3時「ニュースをつくろう！」で構想するよりよい地方の政治のあり方とは？

- 1 地方の政治は見えますか？
- 2 むじな市の「くるみ山レジャーランド」建設による大規模開発を考えるために、「ニュースをつくろう」
 - (1) ニュースをつくるために、9つのムービータイトルから3点選択する。
 - (2) ニュースタイトルを選択し、副題も考えよう。
(副題例)「リスの声にListening！」など
- 3 大規模開発を取り上げたニュースをつくろう！～ニュース発信者側～
 - (1) 自分のグループが作成したニュースの特徴を考えよう。
 - (2) (1)を、以下の視点でまとめよう。
ア 建設の賛否は？ イ 政治家の手続きや住民の主張と、根拠は？
ウ その他の特徴、気づきは？
- 4 大規模開発を取り上げたニュースを読み解こう！～ニュース受信者側～
 - (1) 他のグループが作成したニュースを視聴し特徴を、以下の視点でまとめよう。
ア 建設の賛否は？ イ 政治家の手続きや住民の主張と、根拠は？
ウ その他の特徴、気づきは？
- 5 ニュースづくりを通じて、地方の政策をより分かりやすく伝える（考える）ためには、ニュース発信者側とニュース受信者側は、どのようなづくり方や、視聴が求められるのか。気づいた（考えた）内容を自分なりの言葉でまとめ、グループ内で共有しよう。

8 カリキュラム・マネジメント

学習指導要領には、「関係する専門家や関係諸機関などとの連携・協働を積極的に図り、社会との関わりを意識した主題を追究したり解決したりする活動の充実を図るようにする」とある。このことをふまえて本単元を学習した後、学校所在地の地元の首長、議員、選挙管理委員会などと連携することが求められると考える。そこでまず教室で国と地方自治の関係のあり方、地方の政治上のさまざまな課題など、基礎的な知識を習得した後、自らが居住する地域の政治に対し、生徒が将来有権者として主体的に地方の政治に関わるためにも、投票参加、陳情、請願などの学習で活用する必要がある。このためにも国政に比べ見えにくい地元自治体の政策、争点をつかむはじめの一步として、ニュースづくりの発信者、受信者のあり方などから問いを得て、この問いに対する解決を図りながら、地方の政治に対し、自分はどんな有権者として行動すべきかを獲得させたい。

9 本時の授業展開

- (1) 本時の目標
 - ア ニュースづくりの過程で、ニュース発信者側のあり方と、ニュース受信者側の読み取りのあり方を複数挙げ、立場の違いについて公正に整理できる。
 - イ 「ニュースをつくろう」の大規模開発に対する争点に対し、課題を複数挙げ、対立する意見間の調整方法をまとめ、自分が居住する自治体の政策や争点に対しても、課題を複数挙げ、対立する意見間の調整方法もまとめられる。
 - ウ 「ニュースをつくろう！」の大規模開発建設の賛否に関するニュースの発信者、受信者双方のあり方を学習した成果について、多角的・多面的に、

粘り強く自分の意見を具体的にまとめられる。

(2) 以下本時の展開である。

なお、以下☆は小さな問いを示す

	生徒の学習活動 主な発問	指導上の留意点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習をする (1) 住民投票条例の制定を求める住民が首長に対し直接請求する。 (2) 市町村合併、原発や産廃処理施設建設の動き、大規模開発等があれば、地方政治の争点ははっきりするが…。 ☆あなたが居住する自治体の争点等は見えますか？ ・私たち有権者が地方と国政の政治的情報を得るための労力を考える。 (1) 国政選挙より地方選挙は情報収集の労力が必要。 (2) 得票数は国政選挙のほうが必要。 (3) 地方議会選挙で投票したあなたの1票を、国政選挙の投票と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)、(2) までは前時までの復習なので簡単に確認するのみとする。 ・生徒が居住する自治体で争点の有無を確認する。 ・地方の争点を獲得するための方法として、選挙公報、CATV、地方紙があることを再度確認する。 ・(1)～(3) まで、地方の政治は争点が見えづらい反面、参加コスト、得票、国政との比較など、多面的に考えさせる。
展開 25分	<p>なぜ地方の政治に対し、ニュースづくりをするのだろう…？</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の政治は争点や政策は見えづらいので、どうすれば地方の政治を見えるか考える。 ☆どのようにニュースをつくれれば、地方の政治は見やすくなるのだろう？ ・「ニュースをつくろう！」でむじな市の政策、争点であるくるみ山レジャーランドの建設に関する映像を見た後、ニュースづくりをする。 (1) 発信者側としてニュースを作るために、9つのニュース映像から3点選択する。 (2) (1)の後、選択したニュースの内容に基づきニュースタイトルと副題を決める。 ・グループで編集したニュースを視聴し、以下の点から、ニュースの特徴をまとめる。 (1) 建設の賛否 (2) 政治家の手続きや住民の主張、根拠 (3) その他の特徴、気づき ・他のグループが編集したニュースの受信者側ニュースを視聴し、以下の点から特徴をまとめる。 (1) 建設の賛否 (2) 政治家の手続きや住民の主張、根拠 (3) 立場が異なる点があっ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の政治を、ニュースで報道されるとどうなるか考えさせる。 ・映像は各グループのタブレットに予め設定し、モニターにも投影する。 ・タイトルは映像の中から選択させ、副題はニュースの内容に基づきキャッチーな副題を考えさせる。 ・ニュースの特徴は具体的に書かせ、発信者側としてどんな目的をもってニュースを作成したか考えさせる。 ・見えにくい地方の政治の争点、政策を理解することが目的なので、受信者として他のグループが編集したニュースを、具体的かつ多面的に考えるよう指導する。

	たか否か（４）受け取り側に考えてほしいメッセージの有無（５）その他の特徴、気づき	
まとめ 15分	<p>・ニュースづくりを通じて、地方の政治の争点、政策をより分かりやすく伝える（考える）ためには、ニュースの発信者側とニュースの受信者は、以下２点について気づいた（考えた）内容を自分なりの言葉でまとめる。</p> <p>（１）ニュースの発信者側として、どのようなニュース編集が求められるのか。</p> <p>（２）ニュースの受信者側として、どのような視聴が求められるのか。</p>	<p>・くるみ山レジャーランドの建設の賛否に関するニュースの発信者、受信者双方のあり方を学習した成果として、多面的・多角的に、かつ自分の言葉で具体的にふりかえりを書くように指導する。</p>

<実際に使用した「政治経済ワークシート」>

本日の流れ

<p>1 地方政治の政策は見えますか？ 復習</p> <p>2 なぜニュース作りをするのか？</p> <p>3 むじな市に「くるみ山レジャーランド」建設による大規模開発を考えるために、「ニュースを作ろう」</p> <p>4 私たちが住む町をより良くするために、大規模開発のニュースづくりをヒントに、どのようなニュースをつくり、視聴すれば良いのか？</p> <p>～まとめとふりかえり～</p>
--

1 まずは復習から～地方政治は見えますか？～

憲法が定める住民投票のほかにも、地域の重要問題の場合、当該の住民が直接意見表明すべきだ！

- (1) 住民投票条例の制定を求める住民が、（ 首長 ）に対し直接請求
- (2) 市町村合併、原発や産廃処理施設建設の動き、大規模開発等があれば、地方政治の争点ははっきりする…。

地方政治にはどんな問題点があるだろうか

ヒント：政策や争点を知るためには？（→公報、候補者ビラ、候補者の演説を聞くのみ…？）政党は？（→無所属ばかり…）

メディアやニュースの取り上げ方は？（→地元ケーブルテレビがないと…？）

⇒ 政策や争点が（ 見えない ）場合が多い

- (3) 政治的情報（＝候補者、政策、争点など）を得るための労力はどちらが高い？ ★ 労力：コスト

※ 国政選挙 （ < ） 地方（都道府県、市町村）議会選挙

※ 得票数は国政選挙 （ > ） 都道府県、市町村議会選挙

⇒ 地方議会選挙で投票したあなたの1票の効果は（ 大きい ）！

→ なぜ地議会選挙であなたの1票は効果が…？

2 なぜニュースづくりをするのか？

- (1) 多くの地方政治における政策、争点などは見えにくい
→ 地方が抱える課題やこれを取りこえる政策や争点が見えれば、メディアは報じ、地元の有権者も関心が高まる！？
- (2) むじな市の政策、争点 くるみ山レジャーランドの建設
- (3) 有権者は通常政策、争点を受け取る主体だが、有権者がニュースの「作り手」を疑似体験し、公正に政策や争点を考え、判断する方法と視点を考える

3 ニュースづくりを体験！

- (1) グループ内でニュースを作ろう
- (2) ニュースを作るために、9つのムービータイトルから3つを選択する
- (3) くるみ山レジャーランド建設に関するニュースのタイトルと副題は？
以下に書き込もう！

(3) ニュースタイトル：

副題：～

～

4 大規模開発を取り上げたニュースから…！？～ニュース発信者側～

- (1) 自分のグループで編集したニュースを、視聴してみよう！
- (2) 自分のグループが作成したニュースの特徴をまとめよう！

※ ヒント ① 建設の賛否は？ ② 政治家の手続きや住民の主張や根拠は？
③ その他の特徴、気づき

①

②

③

5 大規模開発を取り上げたニュースから…！？～ニュース受信者側～

- (1) 他のグループが編集したニュースを、視聴してみよう！
- (2) 他のグループが作成したニュースの特徴をまとめよう！

※ ヒント ① 建設の賛否は？ ② 政治家の手続きや住民の主張や根拠は？
③ その他の特徴、気づき

①

②

③

- 6 ニュースづくりを通じて、地方の政策をより分かりやすく伝える（考える）ためには、ニュース発信者側は①どのような作り方や、ニュース受信者側は②どのような視聴が求められるのか。気づいた（考えた）内容を自分なりにまとめ、グループ内で共有しよう。

①

②

3年 組 番 氏名

10 生徒の学習成果とその評価

国政、地方の選挙を問わず投票率低下が叫ばれて久しい。特に都道府県、市町村議会議員のなり手不足、首長選挙の無投票当選、多様性が叫ばれるなかでも、地方の女性議会議員も極端に少ない現状も問題である。このようなさまざまな地方の政治上の課題は、政治的情報、例えば政策、争点、候補者の属性などの理解、選択の困難さから生じているのではないかと、本報告の授業者は考えている。

そこで、共同研究者である川崎誠司作成のアプリケーション「ニュースをつくろう！」を活用して、地方の政治の争点、政策をどのように分かりやすく伝え、読み解くかについて、発信者側、受信者側双方から、公民科「政治経済」、地方自治単元の最後で主題学習を設計し、生徒ともに授業者も考えてみた。

この授業のレポートで報告された内容は以下の通りである。まず、発信者側である。「ニュースの偏りを出さない否定、賛成両者をバランス良く出す。」については、大変多くの生徒が報告した。「見た人にこう思わせたい」という明確な目的をもってそうなるような情報を固めてから発信する。」「意見と感想は分けて作ること、何が言いたいのか主張を明確にすること。対立意見と問題の争点をはっきりすること。」と報告する生徒も少ないながらもいた。また「その中でも専門家と一般の意見等に分けて発信する」などの言葉を用いて報告していた。

さらに授業者が想定していなかった報告は以下の指摘である。「導入のようなその話題についての説明を最初に入れる」である。これはいわばニュースのリード文部分にあたりと考えられる。最初に主題、すなわち大規模開発についての何が争点になっているのかについて説明をおこない、受信者側に分かりやすく伝えることを目的としたものと考えられる。前に挙げた内容を報告した女子生徒が「どちらかの立場にはっきり立って報道した方が簡潔に伝わる。構成するときに事実ばかり並べても、情報の羅列っただけでニュースにならない。なので、事実を1つ、意見もいくつかを入れて作らないと何も伝わらない。伝えたいことを第一に出した方がわかりやすい。」とも報告した。「どちらかの立場にはっきり立って報道した方が…」は、授業者は想定していなかった。「構成するときに事実を並べても、情報の羅列…」だとする本人なりの根拠、思考した過程などについて、彼女にレポート提出後、すぐに聞き取りをすべきだったと反省している。

次に、受信者側である。「出てきた情報をそのまま受け取らず自分なりに考えてみる（調べる）。」など、ニュースから流れる情報の内容、背景、出所、印象操作などをふまえて、ニュースを読み解く必要があると報告する生徒が多くみられた。このことは「政治経済」の本単元だけでなく、「情報」や「総合的探求の時間」で調べ、発表

学習をする際、文献や出所を読み解くことについて指導された成果でもあると考えている。

授業者が想定していなかった報告は以下である。「ニュースの全体の流れをつかみ、そのニュースが中立か、一方の立場に立って、そちら側の意見のみ取り上げていないかを注意し、報道されていないところにも多数の意見があることを忘れない。」があった。最後に、受信者側の報告で、本単元の目標に近づいたと授業者が考えた報告は以下3点である。第1に、「受け取った事実をどのように自分で処理するか、実際その土地に住んでいて、その政策の影響を受ける人たちの意見はかなり重要だと思う。外野の立場のままでは考えず、住人の立場に立って考える。」である。第2に、「全国的なものとは違い、身近なものとして考えるべき。自分の考えでももしかしたら変わるかもしれないと考えること。地方のものは直接的な損得の影響が大きいこと。」である。第3に、「多数派の意見に流されないようにする。視聴者に聴く意思がなければどんなに良いニュースを作っても意味がないので、自分の市のことだと自覚を持って視聴する。自分の立場を明確にして意見をとり入れることが大切だと思う。」である。以上3点は居住する地域の政治に対し、「自分ごと」に近づいた報告であると考えている。

残念ながらこれらの報告をした生徒は2023年3月に卒業した。彼らのような報告を第2学年で2023年春から履修する「公共」で、1人でも多くの生徒に、政策や争点などの政治的情報、ニュース編集の意図、ニュースを読み解く力を身につけさせた上で、生徒が居住する自治体の政治に関わる主体性を育みたいと考えている。

11 「18歳市民力」育成についての提案

生徒が18歳になり、有権者として地域で政治的に活動しようとする意欲がいくらあっても、現在の見えにくい地方の政治を読み解く力をもとにして、実際の政治に関与しなければ、より良い地域づくりは実現できない。小5向けに作成されたアプリケーション「ニュースをつくろう！」は、地方の政治について、発信者側、受信者側双方から政治的見方・考え方を育むために、多面的・多角的に考えさせられる良質な教材であることは間違いない。居住する地域の政治を生徒に多面的・多角的に考えられるように定着できれば、あとは生徒を行動変容させることが課題となる。

この課題を達成させるためにも「18歳市民力」とは、教室で多面的・多角的に学び習得した内容をもとに、集団の大小を問わず、いかに自らが居住する地域で、町内会、自治会単位の決めごとから、市町村、都道府県単位の政治に、最終目標は国の政治に対し「自分ごと」として関わることだと考えている。

補足：ウェブアプリケーション「ニュースをつくろう！」の概要

2020年5月に「GIGAスクール構想」の3年前倒しが決まり、全国の小中学生全員にICT端末が配布された。ハード面はある程度充実することになったが、ソフト面においては、学習単元のテーマや内容に対応したアプリケーションの開発は依然として十分ではない。知識の定着をねらいとするドリル型教材は古くから開発されてきたが、思考力を育てるシミュレーション型やロールプレイ型の教材開発は遅れたままになっている。

五年生の情報単元は学習指導が難しいとよく言われている。情報の作られ方、情報の伝わり方などの学習は、社会科見学での新聞社や放送局への訪問を踏まえて実践されることもよくある。だが、情報の本質に迫る学習になりにくいという課題があった。

そこで筆者（川崎）はGIGAスクール構想に先立つこと10年前、2010年に始まった教育研究プロジェクトにおいて、「ニュースづくりを通して情報の公平・公正な伝達／理解の難しさを学習者に理解させる」というねらいを持ったアプリケーション

を作ることにした。そのアプリケーションでは「自分たちの住んでいる地域がレジジャーランドとして開発されるとしたらどうするか？」を考えさせることをテーマに据えた。筆者の専門の多文化教育と社会科教育の共通課題である「公正な社会的判断力の育成」を念頭に置いている。

アプリケーションでは、行政や住民それぞれの立場からの賛否のコメントを内容とする取材クリップ映像が用意されている。



作りたいニュースのテーマに合ったタイトルを6枚の選択肢（上写真 中）から1枚選ばせた上で、3つのタイトルクリップ（ナレーション付きの静止画像）と6つのクリップ映像（取材ムービー）の計9つの選択肢から、3つを選んでニュースを作る作業を学習者に課すことになる。

9つのクリップそれぞれの音声の内容は以下の通りである。

- | | |
|---|--|
| 1 | (タイトル)：くるみ山レジジャーランドの完成予想図。家族で楽しめるアウトドア施設でアトラクション，特産品，季節の食べ物を楽しめる。 |
| 2 | (タイトル)：くるみ山は自然の宝庫。開発によって自然のバランスが崩れることが心配されている。 |
| 3 | (タイトル)：レジジャーランド開発について住民から不満の声が上がっている。議会での検討や市民への説明会が少なく，市長独断という不満。 |
| 4 | (市長)：くるみ山開発計画によって人を呼び戻して市を活性化できる。(賛成) |
| 5 | (地域活性事業コンサルタント)：レジジャーランド開発によって人が市に入ってくる。地域活性化につながる。(賛成) |
| 6 | (自然保護団体)：くるみ山は野生のリスたちの楽園だった。一緒に生きていく方法を考えるべき。(反対) |
| 7 | (市民団体)：レジジャーランドの開発については市民への説明が不十分だった。自然保護もきちんとやっていくと言っているが，我々は厳しくチェックしていきたい。(反対) |
| 8 | (町の人 親子)：このへんには小さな公園くらいしか遊ぶところがなかった。レジジャーランドができたなら子どもたちと遊びに行く。(賛成) |
| 9 | (町の人 男性)：この町のいいところは豊かな自然。それがなくなるのは残念。反対している人もいたのに，急に決定したのは残念。(反対) |

3つの映像を選び終えてボタン（「ニュースを見る」）を押下するとテレビのニュース番組のように映像と音声の流れていく。ニュースづくりのシミュレーションに加えて、ニュース番組ごっこのようなロールプレイにも応用できる。

内容は組み合わせによって地域の自然開発に賛成のニュースにもなるし反対のニュースにもなる。さらに公正中立なニュースを作るとなると途端に難しくなる。選んだ三つのクリップ映像ではどうしても偏ってしまうため、「事実」「客観性」「伝わり方の違い」などについて子どもたちは悩むことになるのである。

杉田孝之（千葉県立津田沼高等学校） 川崎誠司（東京学芸大学）